

かながわコミュニティカレッジ講座 修了生インタビュー

「防災教育ファシリテーター養成講座 初級編」受講

講座実施団体：認定NPO法人かながわ311ネットワーク

令和5年度のかながわコミュニティカレッジ（以下コミカレ）の講座「防災教育ファシリテーター養成講座（初級編）」は、横浜・小田原会場合わせて35名の方が受講されました。そのうち22名は上級へと進み、来年度の防災教育ファシリテーターデビューを目指しています。

受講後に活動へと結びついている方のお話を伺いたく、講座実施団体から紹介していただいたのが横山さんでした。

プロフィール

横山清文（敬称略）。横浜市戸塚区在住。現在お仕事の傍ら「日本防災士会 神奈川支部副支部長」「一般社団法人危機管理教育研究所 研究員」「自治会防災委員会副委員長」として活動。コミカレ講座修了後「防災教育ファシリテーター」の肩書も加わった。

～何故受講しようと思ったのか～

プロフィールからもわかるように、既に防災の最先端で長く活動されている方です。何故受講したいと思ったのでしょうか。

「子どもに教えるという講座はなかなかないんです。それで是非受けたいと思いました。そもそも自治会で防災について、長いこと住民のみなさんをお願いしているのですが、これがなかなか進まない。」

横山さんは200世帯程のマンションの自治会で、防災委員をしていらっしゃる。

「子どもから大人を動かして欲しいと考えました。自治会の役員が、水の備蓄をしてくださいと言ってもなかなか動いてく

れない。でも、子どもが『お母さん、地震で水道が止まったら、僕の飲むお水はどうするの』と言ったら備えてくれるのではないかと思ったからです。」

防災に対する真剣な想いは、福島県出身に由来しているそうです。東北の震災の折には、1ヶ月も御実家のある現地に入れなかったとか。また、3月で現在のお仕事が一区切りし、時間に余裕ができることも理由の1つであったそうです。“先を見据えて準備をする”言うのは簡単な様ですが、とても難しいことだと思います。



～危機意識を持った子どもを育てる～

「以前テレビで、小学校の予告なしの避難訓練の様子が流れていたのですが、『避難訓練です、地震が来ました』と放送が入ると、休み時間で校庭にいた子どもたちが教室に戻って机の下に潜るんです。校庭が一番安全なのに、そこに残ってしゃがんだ子は3人程度。100人以上は教室に戻ってしまったのです。一番安全な場所にいたのに、敢えて危険な場所へと走っていく。」

それはなかなかショッキングな光景です。

「子どもたちは教えればちゃんと守れる。」

地震が来たら机の下に潜る、それは授業中とかなら間違っていない行動です。でも安全な場所から危険な場所へわざわざ行くのは違うと思います。」

「ポイントを絞って教えたいですね。子どもはたくさん覚えられる。せいぜい3つくらいかな。」

それは大人も一緒かもしれません。



～今後の活動について～

「まずは年内のデビューを目指します。小学校で何人かのグループのファシリテーターとして、子どもたちに教えたい。でもこればかりは依頼が来ないと出番がないので。」

「あとは自治会でお祭りをするのですが、その際にゲームのような形で伝えられたいかと考えています。経験は大事です。今は北陸の地震があったりで、意識が高まっています。子どもたちから地域に防災を広めて行って欲しいですね。」

講座で講師を務めることもあるのではないのでしょうか。

「お手伝いで入るのは是非やってみたいですが、自分で話すのは1年位勉強させていただいてからがいいかな。同期には優秀な方が多いんです。他の方のレポートを読ませていただくと、すごくわかりやすく、まとめ方も上手で、自分なんかまだまだだなと思ってしまいます。」

～インタビューを終えて～

とても穏やかに、分かりやすい言葉を選び、思いを伝えてくださいました。

実はエンジニア出身で、希望した訳でもないのに営業畑、とおっしゃっていました。仲間内では「何で？」と言われるそうですが、天職ではないかと思ってしまう。論理的で具体的、説得力があるのに優しい語り口。お客様からよく飲みを誘われるというのも納得です。

防災教育ファシリテーターとしても活躍され、子どもたちが安全に自分の身を守れるよう、伝えて欲しいと思います。



避難行動を考えるワークショップ「逃げ地図」

令和6年2月10日取材

小林

(かながわコミュニティカレッジ事務局)